

当面の技術対策（畜産編）

平成23年8月15日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 乳牛の飼養管理

8月中旬以降も残暑が厳しく、牛はストレスに曝される期間が続くことが予想されます。暑熱対策を徹底し、受胎率低下や、体力の低下による疾病罹患(乳房炎・犂疔症等)の予防に向けて、十分な配慮が必要です。

(1) 飼養管理と環境の整備

牛舎内の換気、牛体への直接送風等を効果的に行いましょう。

サイレージ取り出し時は、二次発酵を抑制するよう細心の注意をはらい、腐敗部位は廃棄し、牛に給与しないように心がけましょう。

給与回数、掃寄せ回数を増やして、採食意欲を刺激しましょう。

飼槽や水槽周り等の清掃をこまめに行い、十分な採食量・飲水量確保に努めましょう。また、飼槽に凸凹があると、飼料片やよだれが残り、さらに腐敗を助長します。

コンクリート補修剤で平らにし、レジンなど耐久性がある資材で補修しましょう。

グラスサイレージやTMRが飼槽で二次発酵(発熱)していないか確認しましょう。

濃厚飼料は飼料タンク内・紙袋内であっても、保存環境によってカビ等による変敗が起きます。濃厚飼料の保管状況、特にタンクのブーツ部位等にカビの発生がないか確認・除去しましょう。

消毒槽等を適正に管理し、農場への病原菌の侵入を防止しましょう。

(2) 乳質管理

搾乳機器の正しい洗浄・殺菌の励行とともに、搾乳ユニット(特にバケット搾り専用ミルカー)やバルククーラー等の汚れやすい部分は分解して手洗浄を行い、定期的な点検・整備に努めましょう。

旬毎の細菌数の変化を常にチェックし、洗浄・殺菌工程に異常がないか確認しましょう。

牛床清掃後に消石灰散布、敷料を十分に投入し牛床を乾燥した状態に保ちましょう。

2 2番草の収穫

チモシー主体草地の2番草刈り適期は、1番草刈り後55～60日程度です。適期刈りに努めましょう。1番草刈り時と同様に、以下の点に注意しましょう。

ハーベスタの刃の研磨を励行。原料草への異物(泥・たい肥等)混入阻止。

原料草を薄く散らして(30cm以下が効果的)しっかり踏圧。

積み込み後は速やかに密封(調製当日に密封まで終える)。

3 草地更新

アルファルファやアカクローバは、越冬性を確保するため越冬前までに根長が5cm以上に生長する必要があります。そのため、混播草地の更新は、できれば8月上旬、遅くとも8月中には、は種を終えましょう。

**ストップ・ザ農作業事故
生産履歴記帳を忘れずに**